

日米AI連携 キックオフセレモニー開催

4月23日、筑波大学と米シアトルにあるワシントン大学、それにNVIDIAとAmazonによる、日米AIパートナーシップの本格始動を宣言するセレモニーが、筑波大学東京キャンパスで開催されました。



日米 AI パートナーシップは、人工知能(AI)分野における研究、人材育成、アントレプレナーシップおよび社会実装を目的として、昨年4月にアメリカの首都ワシントンDCで基本合意されたものです。筑波大学とワシントン大学、それにNVIDIAとAmazonが参画し、5000万ドル(約75億円)の支援が10年間で行われます。

今回のセレモニーには、ワシントン大学、NVIDIA、Amazonからの代表に加えて、在日米国大使館ダニエル・アーンスト広報・文化交流担当公使、文部科学省北山浩士国際統括官、経済産業省奥家敏和商務情報政策局審議官にご臨席いただき、さらに日本内外の多数の企業の方々にもご参加いただきました。



(筑波大学永田恭介学長)



(在日米国大使館ダニエル・アーンスト広報・文化交流担当公使)

開会の挨拶では永田恭介学長が、日米が国際的に産学連携をするということは非常に重要だとして、このプロジェクトがAI分野における社会実装につながることを目指したい、と述べました。

また、来賓の在日米国大使館ダニエル・アーンスト広報・文化交流担当公使は、このパートナーシップにより、AI研究やイノベーションが促進され、人的交流も更に拡大することに期待を示し、この連携は日米の新たな黄金時代を築くための一つの重要な側面である、と述べました。

セレモニーでは、ワシントン大学のジェン・ネン・ファン共同ディレクター(クロスパシフィックAIイニシアティブ(X-PAI))、Amazonのアン・セトディレクター(アカデミックリサーチイニシアティブ)は、NVIDIAのジャック・ウェルズディレクター(ハイアーエデュケーションアンドリサーチコンピューティング)にご講演をいただき、それぞれのお立場から人工知能(AI)分野への研究をはじめ、次世代を担う人材育成や社会実装への動きや取り組み、さらに今回のパートナーシップへの期待をお話いただきました。

セレモニーでは、日米が連携して、人工知能(AI)分野で新たな挑戦をする今日的な意義を表明しました。

【問い合わせ先】

筑波大学研究推進部研究企画課
MAIL: kenkyo@un.tsukuba.ac.jp